

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 48人

② 算数 48人

5 留意事項

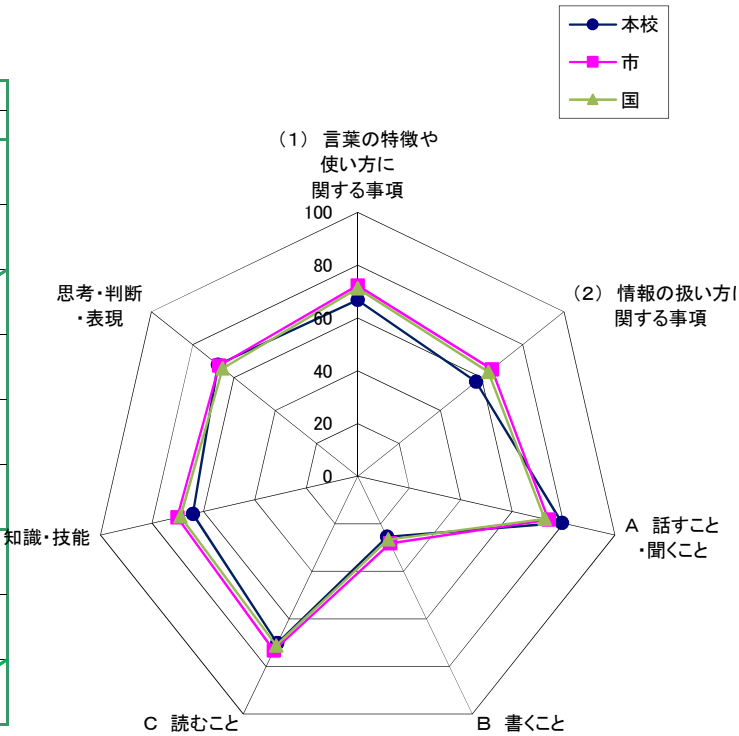
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.8	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	57.4	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	79.4	74.2	72.6
	B 書くこと	25.5	28.2	26.7
	C 読むこと	70.2	73.3	71.2
観点	知識・技能	64.1	70.2	68.9
	思考・判断・表現	67.8	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

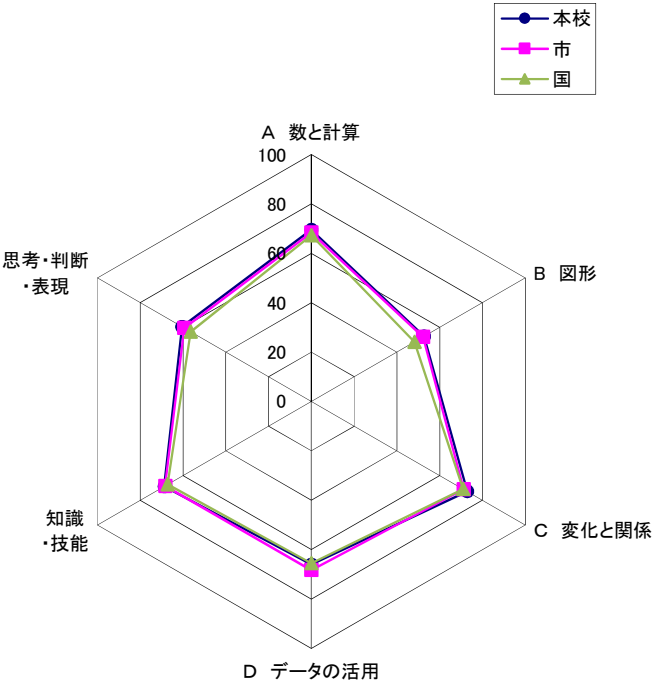
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は66.8%で、市の平均より5.5ポイント低い。 ○文章の種類と特徴についての理解を問う問題の本校の正答率は80.9%で、全国と比べると1.1ポイント高い。 ●習った漢字を文の中で正しく使う問題の本校の正答率は40.4%、日常よく使われる敬語の理解を問う問題の正答率は48.9%で、市の平均と比べて大きく下回っており課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を学習する際には同音異義語があることを知らせ、どの漢字を使うかを選ぶように指導していく。 ・尊敬語と謙譲語の違いについて、日常の場面を捉えて授業以外でも折に触れて使わせたり考えさせたりして正しく理解させていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は57.4%で、市の平均より7.6ポイント低い。 ●原因と結果など、情報と情報との関係について理解しているかを問う問題での本校の正答率は59.6%で、市の平均より6.2ポイント低い。	・複数の新聞記事を読み比べたり、キーワードを捉えて説明書を読んだりなどして、自分に必要な情報を取捨選択する力を伸ばす。 ・情報と情報の関係を正しく理解するために、具体例を示して主なパターンを教える。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は79.4%であり、市の平均より5.2ポイント、全国の平均より6.8ポイント高い。 ○インタビューのやりとりから、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを捉える問題の本校の正答率は85.1%と高い。	・引き続き、日頃から児童会活動などを通して話し合いやインタビューを行う機会を多く設け、話す・聞く力を高めていく。
B 書くこと	平均正答率は25.5%で、市の平均より2.7ポイント低い。 ●グラフから情報を正しく読み取り文章で書き表す力や、条件に合わせて文章をまとめる力に課題が見られる。	・与えられた情報を使って、条件を満たした文章を書く学習に取り組む。 ・主要教科において、グラフや表を正しく読み取り、そこから分かることを的確に文章にする練習を行う。
C 読むこと	平均正答率は70.2%で、市の平均より3.1ポイント低い。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約した文を選択する問題の本校の正答率は93.6%で、市の平均より3.0ポイント高い。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題の本校の正答率は53.2%で、市の平均より5.7ポイント低い。	・あるテーマについて自分の意見をまとめる際に、例えばインターネットの情報だけでなく新聞記事や図書資料、インタビューなどから情報を得て考える経験を積ませることで、複数の資料から読み取ったことを基に、それらを関連付けて多角的に自分の考えをまとめられるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.5	68.4	67.3
	B 図形	52.7	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	72.9	71.2	70.9
	D データの活用	66.0	68.3	65.5
観点	知識・技能	68.8	68.4	67.2
	思考・判断・表現	60.5	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は69.5%で、市の平均より1.1ポイント、全国の平均より2.2ポイント上回っている。 ○一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかを問う問題の本校の正答率は87.4%であり、全国の平均より6.4ポイント高い。 ●「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかを問う問題では、全国の平均より1.2ポイント低い。	・今後も、上央小算数検定などを中心に、基本的な計算の定着を図っていく。 ・「以上」「以下」「未満」について再確認し、数直線や図などを活用して視覚的に理解を深めさせる。
B 図形	平均正答率は52.7%で、市の平均より0.5ポイント、全国の平均より4.5ポイント上回っている。 ○台形や正方形の意味や性質について理解しているかどうか問う問題では、どちらも全国の平均を大きく上回った。 ●正三角形の意味や性質について理解しているか問う問題の本校の正答率は21.3%で、全国の平均より3.6ポイント低い。 ●三角形の面積を底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題の本校の正答率は29.8%で、市の平均より2.7ポイント低い。	・それぞれの図形の特徴や性質について整理したり、実際に作図したりすることを通して、定着を図る。 ・三角形の面積を求める方法を再確認し、自分の考えを、筋道を立てて分かり易く説明したり式や言葉を用いて記述したりする機会を日常的に設けていく。
C 変化と関係	平均正答率は72.9%で、市の平均より1.7ポイント、全国の平均より2.0ポイント上回っている。 ○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いていることができるかを問う問題の本校の正答率は93.6%で、全国の平均より5.1ポイント、市の平均より4.6ポイント高い。 ●百分率で示された割合について理解しているか問う問題の本校の正答率は46.8%で、市の平均より1.1ポイント低い。	・二つの数量の関係が、比例の関係かどうかを判断するときに自分の考えをその根拠を明確にし説明することができるよう指導する。 ・百分率の意味と求め方を再確認し、反復練習により定着させていく。
D データの活用	平均正答率は66.0%で、市の平均より2.3ポイント低い、全国の平均より0.5ポイント高い。 ○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかを問う問題の本校の正答率は59.6%で、全国の平均より3.4ポイント高い。 ●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかを問う問題の本校の正答率は63.8%で、市の平均より3.6ポイント低い。	・棒グラフの数値の読み取り方を再確認し、繰り返し指導していく。 ・二次元の表の読み取り方を再確認し、他教科や学級活動などで活用して行く場面を設定する。 ・問題の意図する内容を正しく読み取る力に課題が見られる。様々な教科で、読み取ったことを自分の言葉で説明する機会を多く設定し、読み取る力の定着を目指していく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は93.7%、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対する肯定的な回答は93.8%となり、県・全国平均を上回っている。これは、登下校や縦割り班での活動、委員会活動、学校行事等、様々な場面で児童が高学年としての役割を担う機会を多く設けていることや、それに対して児童一人一人が責任をもって活動に取り組み、協調性や自己肯定感が高められているからだと考えられる。今後も、互いに協力し励まし合いながら活動し、喜びを味わったり達成感を高めたりできるような機会を増やすとともに、児童の活動の様子を教員間で共有し、励ましたり称賛したりすることで、課題に対して諦めずに粘り強く取り組んでいこうという気持ちがもてるようにしていく。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的な回答は100%となり、県・全国平均を上回っており、学校全体でのいじめに対する指導やいじめゼロ月間等の継続した取り組みから、児童のいじめへの意識が定着しており、今後も継続して指導し、いじめ根絶に取り組んでいきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答は95.8%、「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」に対する肯定的な回答は、83.4%、「友達関係に満足していますか」に対する肯定的な回答は93.7%となり、県・全校平均を上回っている。これは、友達との関わりを大切にできた学校や学級の取組の成果と考えられる。また、授業における協働的な学びとして、探究的な学習や体験活動を通して他者との意見交換などの学び合いを体験し、友達と関われることの良さを感じているからだと考えられる。今後も様々な学びができる学習を積極的に取り入れていくようにする。

○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は100%で、全国の平均より4.9ポイント上回っている。また、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」に対して、「30分以上使っている」と回答した児童が60.5%で、全国の平均よりも19.4ポイント上回っている。GIGAスクール構想に基づいて、1人1台端末を授業や普段の学習に活用してきたことの成果と言える。今後も1人1台端末をさらに活用し、児童一人一人が個別最適な学びを得られるよう、引き続き指導をしていきたい。

●「新聞を読んでいますか」に対して、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童が81.3%で、全国の平均より8.0ポイント高い。「ほぼ毎日読んでいる」と回答した児童は0%、「週に1～3回程度読んでいる」「月に1～3回読んでいる」と回答した児童は合わせて18.8%で、全体の2割程度しか新聞に触れていないことが分かった。「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は77.1%で、全国より5.3ポイント高く、「当てはまらない」と回答している児童は4.2%となっている。新聞を読んだり読書をしたりすることで、新たな知識を得たり、発見があったりと自分の考えを広げることができるで、家庭に啓発することももちろんだが、学校生活の中で新聞に触れる機会を増やしたり、読書の時間を充実させたりするよう指導の工夫を図っていく。

●「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は100%で、全ての児童が算数の大切さを実感している反面、「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は62.5%で、全国の平均より1.1ポイント上回っているが、やや低い傾向にある。算数の授業の内容が分かることで算数の勉強を好きになることにつながると考えられるため、一人一人の実態に合わせた分かる授業を今後も展開していく。

宇都宮市立上河内中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の習得	朝の時間を活用して「上央小算数検定」を実施したり、AIDリル等のドリル教材を行ったりして、基礎的な学力の定着を図っている。また、4年生以上は算数科において習熟度別学習や少人数指導を実施し、個に応じた指導を行っている。	算数の「知識・技能」の正答率は68.8%で、全国平均と比べて2.2ポイント上回ったが、国語の「知識・技能」の正答率は64.1%で、全国平均と比べて4.8ポイント下回った。
学び合う活動の充実	全教職員で「上央小授業スタンダード」を確認し、「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業を展開していく。課題解決の場面では、ペアやグループ学習など意図的な交流の場を設定し、学び合う活動を充実させるようにする。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていますか」との設問に肯定的に回答した児童の割合は87.5%で、全国の割合を5.7ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、語彙力・読解力が低く、教材文や設問を正しく理解する力や、資料を読み取る力に課題が見られた。	読書活動の充実	朝の読書の時間など読書の時間に、自分の好きな本だけではなく、学年お勤めの本を読み、まとまった文章を読む習慣を身に付けさせる。
記述式の設問において、条件に合わせて文章を書く問題や自分の考えをまとめる問題の正答率が低く、課題が見られた。	書く活動の充実	朝の活動や宿題などで、キーワードを提示したり、文字数などの条件を付けたりして、文章を書く練習を行う。また、各教科の学習において自分の考えを文章で書かせたり、友達の考えを聞いて自分の考えを整理して書く活動を取り入れたりする。